

ミヤマツチトリモチ

Balanophora nipponica Makino

ツチトリモチ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本の固有種で石川県ではきわめて希れに産する。(現況:RO)

形態

根茎は表面に星状の白い皮目が散在し、多数の大小不同の小さな根茎支に分かれ、そのうちのいくつかから一度に花茎を出す。花穂は長楕円体～楕円体で、橙赤色～橙黄色で色の変化が多い。ツチトリモチとは花穂の鮮紅色、橙赤色で、球形から楕円体、小棍体の長頂はくぼんでいるなどの点で区別される。

国内分布

本州(秋田県、岩手県以南)～九州に分布する。

県内分布

南加賀区のブナクラス域の標高500～1600mに分布し、落葉広葉樹林の林床に生育する。

生態など

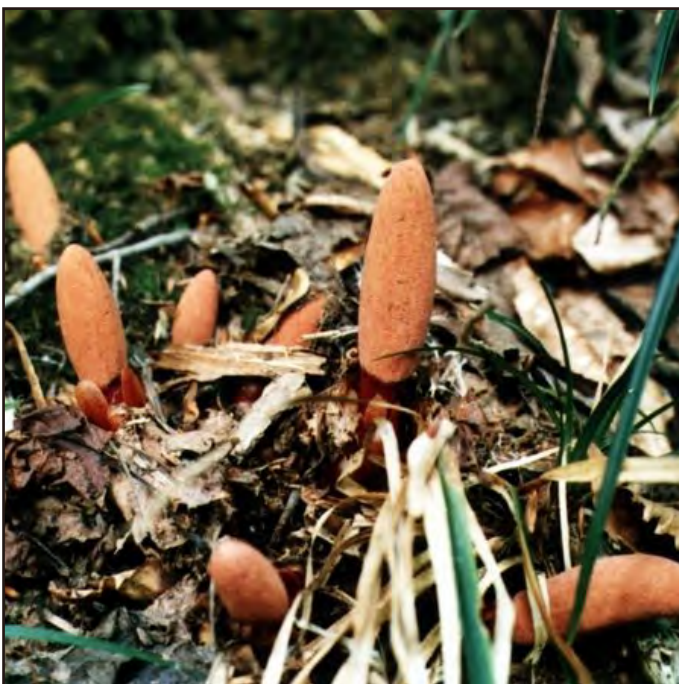
高さ8～14cmの多年草である。イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ヤマモミジ、コミネカエデなどの落葉樹に寄生する。年数がたつにつれて、根茎と宿主の根の先端の接合部は肥大して木化し、球形となり、寄生木こぶを生ずる。寄生木こぶが肥大するにつれて花茎の発生能力は衰える。雌雄異株であるが、雄株は発見されていない。開花期は7～8月。

生育環境

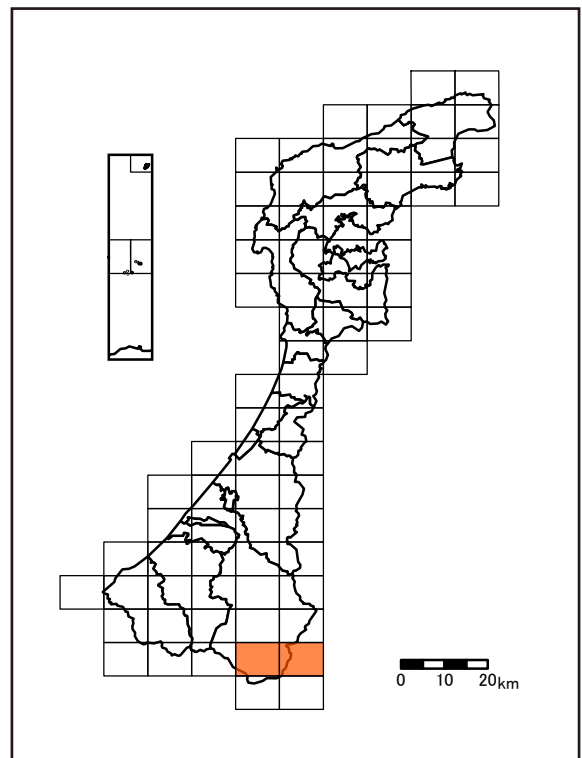
溪流近くの斜面に成立している落葉樹の林床に生育する。

危険要因

森林伐採。



鳥嶋昭信



県内の分布